

令和3年度 特別支援学校寄贈物品 使用状況報告書 【1年目】

P T A名	静岡県立西部特別支援学校 P T A
学 校 名	静岡県立西部特別支援学校 <input type="checkbox"/> 視覚障害 <input type="checkbox"/> 聴覚障害 <input type="checkbox"/> 知的障害 <input checked="" type="checkbox"/> 肢体不自由 <input type="checkbox"/> 病弱
設 置 部	<input type="checkbox"/> 幼稚部 <input checked="" type="checkbox"/> 小学部 <input checked="" type="checkbox"/> 中学部 <input checked="" type="checkbox"/> 高等部
全校児童・生徒数	137人

1. 使用状況

寄贈物品名	大型2連ブランコ
使用学年及び人数	小学部1年生から6年生
使用頻度	天気や気温が良い季節(5・6月、10・11月)の授業や昼休みの時間
使用状況	<p>小学部:学年集団及び学習グループ集団で使用 (年間を通して30日程度使用)</p> <p>○单元名「学級活動」「遊びの学習」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学年全体において、友達と関わり一緒に楽しい時間を過ごす。 ・外の自然環境に触れるとともに、揺れる感覚的刺激を体感する。 ・自分が感じたことを表現したり、自分の気持ちを伝えたりする。 <p>〈使用の仕方〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個々の障害に応じた姿勢やマットなどの安全対策をする。 ・体験したい児童も多くいるため、順番や体験時間を決めて行う。 ・昼休みの時間も同様に行い楽しんでいる。
物品の使用による変化や効果	<ul style="list-style-type: none"> ・背もたれがあり安全バーが付いていたり、寝転んで乗れたりする吊席により、児童生徒個々の障害の特性に合わせて安全に活動することができている。 ・体験したいという気持ちから、言葉で伝えたり、自ら手を伸ばす、視線を向けたりするなどして、自分から乗りたいという意思表示を相手(友達や教師)に伝えていた。 ・揺れの大きさに気付いて楽しむ姿が見られた。 ・外での活動になり、春や秋などの季節を感じながら活動を楽しむ。
今後の活用の見通しや課題	<ul style="list-style-type: none"> ・肢体不自由の児童にとって、大きな揺れのある感覚刺激は、なかなか体験できない。また、日常生活の中でも受け身的な活動が多い中、自分からのまたやりたい、などの意思表示をするなど、教育的効果は大いにある。 ・昼休みにも、児童生徒が遊具で遊びたいと言うなど、中庭(芝生)が魅力的な活動スペースとなった。
その他希望や所感など	

2. 活用の様子

初めてのぶらんこ。先生と一緒に乗って、慣れたら一人で乗れました。



ゆっくりと揺れるぶらんこ。

体感がとれない子もひとりで乗り、揺れを感じることができました。

一人でぶらんこに乗る経験がなかった児童が、安全バーのおかげで一人で乗ることができました。

